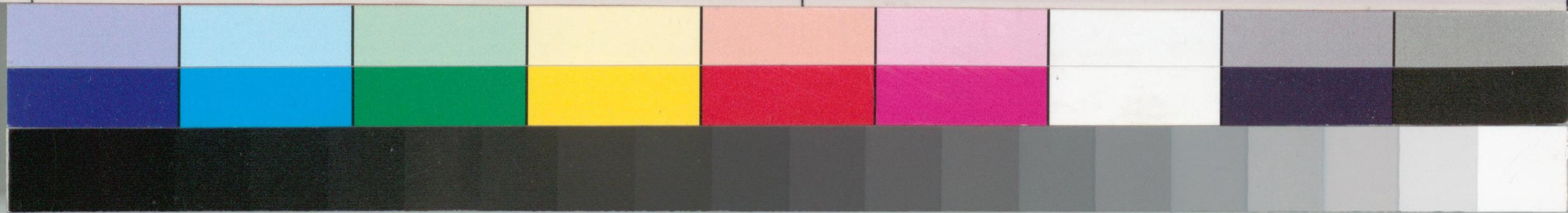
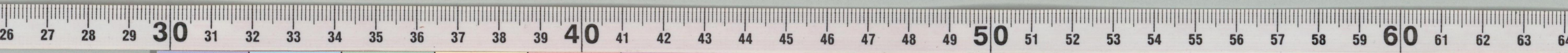


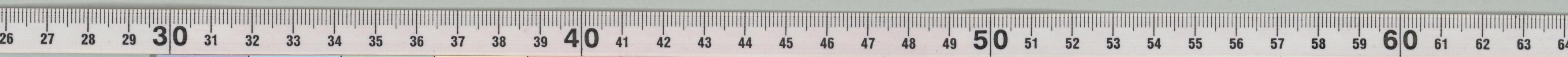
原稿

六
歳
省



大藏大臣に爵位を授け、誠心誠意に
上奏す。臣等、國家の財政を整理し、
大命を奉じて任ず。財政を整理し、
月給を定む。進取の意、財政を整理し、
陛下無疆の業、恩を蒙り、内閣總理大
臣侯爵伊藤博文等、下議院大蔵大臣正
不レ可アリ。トコトク、期を以て
然り。而して目下、財政整理の要、日清戦争
後、於て之を以て、膨脹せし國家の事業を、其の

大藏大臣に爵位を授け、誠心誠意に
上奏す。臣等、國家の財政を整理し、
大命を奉じて任ず。財政を整理し、
月給を定む。進取の意、財政を整理し、
陛下無疆の業、恩を蒙り、内閣總理大
臣侯爵伊藤博文等、下議院大蔵大臣正
不レ可アリ。トコトク、期を以て
然り。而して目下、財政整理の要、日清戦争
後、於て之を以て、膨脹せし國家の事業を、其の



其債急を輕重ヲ按之ヲ裁制更革シテ
以テ国力長カト相適應セシムルニ在リ就中
夫ノ財源ノ國債ヲ募ル集ムホシル所ノ各官設
事業ノ如キハ内外市場ニ於ル經濟景況ヲ
觀察スルテ以テ大ニ其緩急ヲ酌量スル所
ナカル可ラス
若シ目下帝國政府カ負フ所ノ國債ノ總額
ハ凡五億圓ニシテ其外國債ノ屬スルモノ一億
五千萬圓大約總額十分ノ三ニ當ル而シテ
外國債ノ募集ノ事ニ關シテハ

陛下署名ニ侍從長侯爵徳大寺實助ニテ
旨ヲ前大臣大藏大臣正室成ニ傳ヘシ
痛ク其輕舉ヲ戒ノ特ニ之ヲ大藏省中ノ記
録ニ記シヤシムル 臣國武深ク

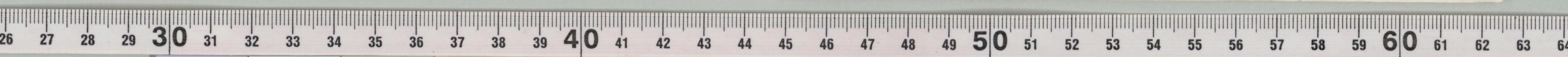
聖意ノ海遠ナルニ感泣シ謹シテ之ヲ奉
獻シ慎重ニテ事ヲ行ヒテトク期ニタリキ

而シテ帝國政府カ將來ニ於テ募ル集ムセサル可
シナル所ノ所定ノ國債總額ハ凡一億二千餘
萬圓ニシテ之ヲ帝國政府カ此ニ其額
甚ク少トシテ之ヲ可ク且目下内地ノ市場ハ

全駐通達法とて國債募集ノ餘地ナキハ
萬人ノ密とク見普ク知ル所ナルカ故ニ此
巨額ノ國債ハ概ネ之ヲ外國市場ニ募集
セサル可クナル者多ク免レシテ而シテ外國市場
亦亦西事件南阿事件北清事件等ノ為
メ金融往々滞調ヲ失シ國債募集ノ困難
ナル今日ヨリ甚シキハナシ
臣國武ハ前陳
聖意ノ在ル所ヲ奉戴シ目下ノ國情ニ於
テ外國債募集ノ事多ク實ニ國家前途

ノ命運ニ關係スヘキ一大危險ヲ包含スル者
ナルヲ思ヒ断然意ヲ決シテ明治三十四年
ニ於テ其財源ヲ國債募集ニ求ムル所官
設事業ハ止ムヲ得サル者外一切馬進行
ヲ延期スルノ議ヲ提出シ去年ニ閣臣ノ同意ヲ
得テ之ヲ法行ニ導テ明治三十五年度以降
ニ於テモ亦其財源ヲ國債募集ニ求ムル所
官設事業ハ國債募集其時ニ非サルカ
故ニ經濟ノ景況回復ニ至ルマテ其進行ヲ
停止スルノ意見ヲ提出スルニ閣臣中往々

歳省



異議アリ事未ク法定、至ラズハテ今日、至
ルハ臣國武深ク遺憾トス所ナリ
然ルニ内閣總理大臣侯爵伊藤博文、臣國武
カ提出セル所ノ意見、甚シク未ク正式ノ閣議
ニ移ル利害得^失討論、結局ヲ見ル、及ハスニ
テ明治三十四年度官設事業進行延期
及、三十五年度以降事業停止ノ問題ニ關
シ閣議不統一ノ責任ヲ引テ卒然辭表シ
捧呈ト事後、於テ臣國武等、向ツテ之ヲ
通告セリ

臣國武ハ今ヤ内外多事、秋ニ際シ雜新
ノ切臣^ト時勢ニ通達シ殊ニ
陛下ノ寵遇ヲ辱ラセル博文、如キ者トシテ卒
然辭表ヲ捧呈シテ内閣ヲ去ラシタルカ如キハ
法ニテ進退ノ宜シキヲ得ルモ、非サルトシ
確信スルト同時、臣國武モ亦之カ為メ、自
ラ懷抱スル所ノ國家ノ長計ヲ一擲シ社稷
ノ安危ヲ顧^スス^レ、徒ラ他ノ閣臣、雷同シテ
辭表ヲ捧呈スルヲ以テ自ら其責任ヲ全
スル者ト思召スルコトハ能ハス

陛下願ハ小皇國ノ前途累印ノ危キノ瀕

スルヲ鑑ミ夕マテ前陳臣國武カ主持スル

ノ斯政息見ニ懐レ深ク

宸衷ヲ注カセラル

制可ノ

宸断ヲ下サルノ俾ニ博文ニ以諭シテ其任

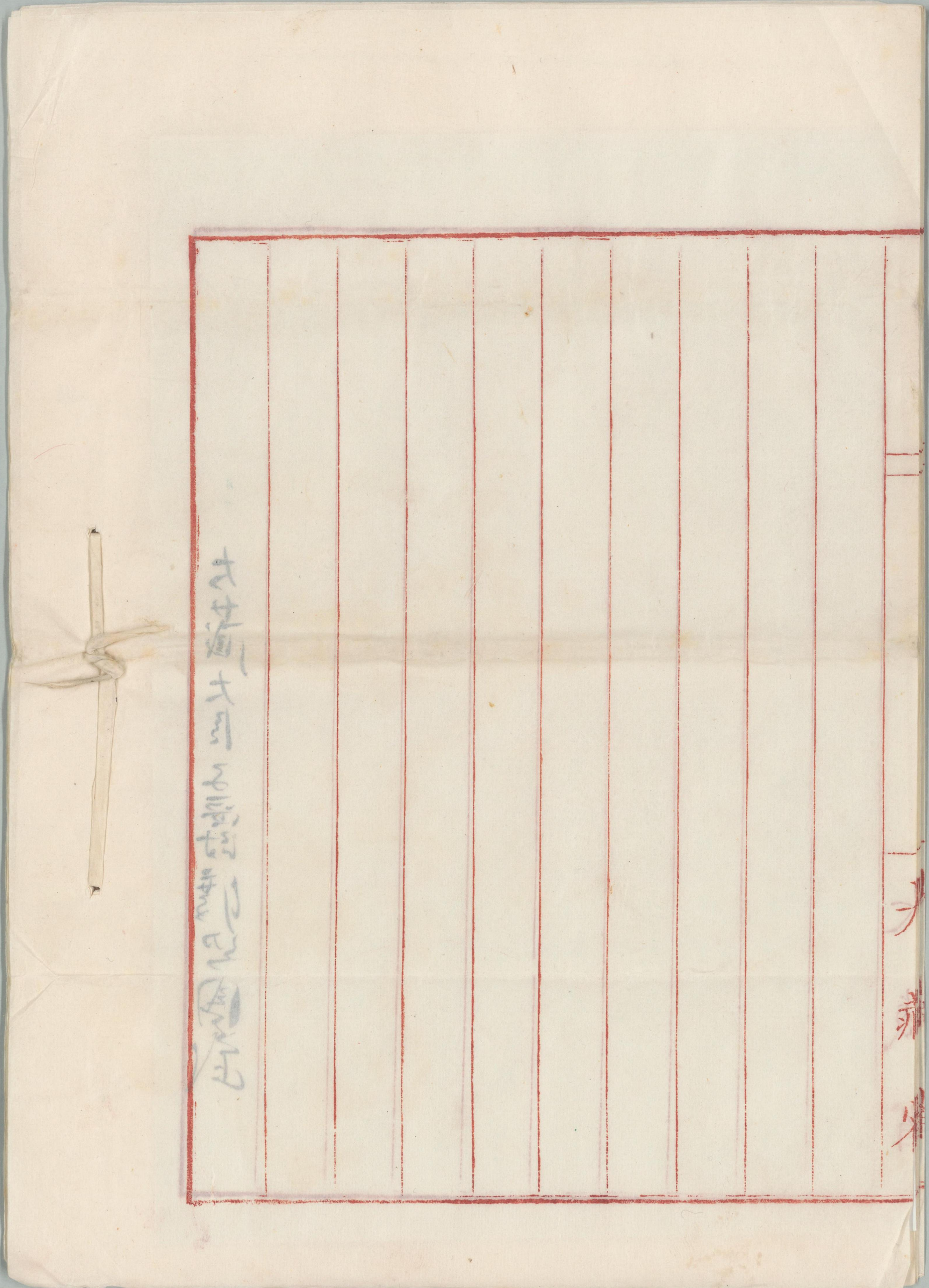
ニ留ラシメテ断然之カ實行テテ期セシメタマハシ

コトヲ臣國武誠恐誠惶ノ至ニ甚メス謹シ

テ上奏ス

明治三十四年九月二日

大藏大臣子爵渡辺武



大正十一年四月廿七日

赤

